

令和 3 年第 4 回臨時会

美 郷 町 議 会 会 議 録

令和 3 年 7 月 2 0 日 開会

令和 3 年 7 月 2 0 日 閉会

美 郷 町 議 会

令和3年4回美郷町議会臨時会会議録（第1日）

令和3年7月20日（火曜日）

◎開閉会日時 令和3年7月20日 午前9時30分 開会
午後10時16分 閉会

◎出席議員（10名）

1番	山本 文男君	2番	中嶋奈良雄君
3番	川村 義幸君	4番	川村 嘉彦君
5番	黒田 仁志君	7番	甲斐 秀徳君
8番	森田 久寛君	9番	園田 義彦君
10番	山田恭一郎君	11番	那須 富重君

◎欠席議員 なし

◎欠員 6番 富井 裕瑞君

◎会議録署名議員 10番 山田恭一郎君 1番 山本 文男君

◎事務局職員氏名 事務局長 小田 広美君 書記 森川 晴君

◎説明のための出席者職氏名

町長	田中 秀俊君	副町長	藤本 茂君
教育長	大坪 隆昭君	会計管理者	三桝 治君
総務課長	下田 光君	税務課長	甲斐 武彦君
企画情報課長	田常 浩二君	町民生活課長	田村 靖君
健康福祉課長	黒田 和幸君	建設課長	林田 貴美生君
農林振興課長	松下 文治君	政策推進室長	沖田 修一君
教育課長	石田 隆二君	地域包括医療局事務長	黒木 博文君
南郷地域課長	川野 一郎君	北郷地域課長	泉田 浩文君

◎会議の経過 別紙のとおり

令和3年第4回美郷町議会臨時会 議事日程（第1）

令和3年7月20日
午前9時30分開議

- 日程第1 会議録署名議員の指名
10番 山田 恭一郎 議員
1番 山本 文男 議員
- 日程第2 会期の決定
7月20日 ～ 7月20日 1日間
- 日程第3 議案第63号 令和3年度美郷町一般会計補正予算
(第3号)
提案理由説明、質疑、討論、採決

会 議 録

令和3年7月20日
午前9時30分開議

【事務局長 小田 広美】

「一同起立・礼」・・・おはようございます・・・着席。

【議長 那須 富重】

改めまして、おはようございます。

1年延期が決まりました2020年3月以降、オリンピックをめぐる議論は混迷を極めてまいりましたけれども、現在、第5波といわれるコロナ渦で緊急事態宣言が出される中、いよいよ東京オリンピックが23日、開会式を迎えることになり、無観客での開催が象徴するように異例の大会となる様相であります。

開催であれば、世界の人々を元気づけ経済・社会の正常化に向けて行動の指針を示し得ることができるとされておりますけれども、最悪の場合、感染が拡大し不安定な日本経済に追い打ちをかけ、現政権にも大きな打撃となるおそれがあります。どうか大きな問題を生むことなく大会を終えることができるようにと願いばかりであります。

さて、本日は7月に入りまして3回目の臨時議会であります。しっかりと審議を進めてまいりたいと考えております。

【議長 那須 富重】

ただいまの出席議員は10名であります。

【議長 那須 富重】

これから、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりであります。

【議長 那須 富重】

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本定例会の署名議員は会議規則第127条の規定により、10番 山田 恭一郎議員、1番 山本 文男議員を指名します。

【議長 那須 富重】

日程第2 会期の決定を議題とします。

この件につきましては、議会運営委員会において検討がなされておりますので、委員長より報告をお願いします。

【議会運営委員長 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

議会運営委員長 黒田 仁志議員。

【議会運営委員長 黒田 仁志】

おはようございます。

令和3年第4回美郷町議会臨時会について、議長より諮問を受けました会期及び日程につきまして、議会運営委員会は、以下のように議長に答申しましたので報告いたします。

会期は本日、1日間とし、議事日程はお手元に配付してあるとおりとしたところです。

以上で、議会運営委員長の報告を終わります。

【議長 那須 富重】

委員長の報告が終わりました。

お諮りします。

本臨時会の会期は、委員長の報告のとおり本日、1日間にしたいと思います。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 那須 富重】

異議なしと認めます。したがって、会期は7月20日の本日、1日間に決定いたしました。

なお、日程につきましてはお手元に配付のとおりであります。

【議長 那須 富重】

報道用の写真撮影等の申出がありましたので、これを許可しました。

【議長 那須 富重】

日程第3 議案第63号 令和3年度美郷町一般会計補正予算（第3号）を議題とします。

【議長 那須 富重】

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

それでは、議案第63号 令和3年度美郷町一般会計補正予算（第3号）について、提案理由を申し上げます。

今回の補正は、歳入歳出予算の総額に、それぞれ4億639万円を追加し、歳入歳出予算の総額を84億6,562万5,000円とするもので、6次産業化拠点施設整備事業に係る経費について計上するものであります。

補正の内容について、まず歳入から説明いたします。

国庫支出金に、農林水産業費国庫補助金の農山漁村振興交付金1億8,500万円の追加。

繰入金は、産業等振興基金繰入金に1億2,100万円を追加、ふるさと応援基金繰入金に1億円を追加、財政調整基金繰入金に39万円を追加しました。

続いて、歳出について説明いたします。

農林水産業費に4億639万円を追加しました。

拠点施設整備事業の工事請負費3億7,139万円の追加、備品購入費3,500万円を追加するものです。

これにより、令和3年度一般会計予算の総額は、歳入歳出それぞれ84億6,562万5,000円となりました。

6次産業化拠点整備事業につきましては、議員の皆様には文教産業常任委員会等々で多くの時間と労力を費やし議論を重ねていただき感謝を申し上げます。

また、議会臨時会を2回ほど開会していただきました。2回とも継続審査となり、本日3回目の臨時議会の開会であります。

再度、栗生産振興に係る取組、支援策について説明をさせていただきます。

文教産業常任委員会で説明をいたしておりますが、この支援策であります。今後、議会の皆様と協議をしながら、しっかりとしたものに取り組みしていきたい、そう思うところであります。

令和2年度の実績で言いますと、町内生産量が69.1トン、栗処さいごう出荷量が57.9トン、平均反収が75.9キログラムであります。目標を令和6年度を設定しておりますが、町内の生産量を136.5トン、栗処さいごう出荷量を90トン、そして平均反収を150キロに設定をしております。

ちなみに、宮崎県の経営指標では、植栽10年目で1反当たり300キロとなっております。この令和6年度の目標に向かうがために最初に推進委員による生産者の意識調査と園地情報の収集をしっかりとやりたいと思っております。

栗部会員や役場職員を中心に各地区に推進員を配置してしっかりと情報の収集を行い、専門業者とともに収集した情報を用いて園地台帳、マップを作成していきたいと思っております。そのときに、栗だけではなくほかの作物に準用できるシステムを構築していきます。

2番目に、苗木購入の補助金であります。現状は40本以上購入、かつ一反以上に植栽する場合は対象でありまして、新植が3分の1、改植が5分の1の補助率であります。これを20本以上、今後、検討が必要かと思っております。購入が対象とし、補助率を新植、改植、補植5分の4、80%にしたいと、そう思っております。

毎年、1,000本の植栽を予定し、植栽前には定植指導も必ず実施をして、目標に達しない場合は再度、精査をしてこの目標にもっていく、そう考えております。

3番目に、農業機械のリースであります。

防除機、草刈り等を町で購入し、新規参入者、通い農業者等に活用してもらい、いろいろな形で町が持っている機械を使っただき、生産量を上げていただきたいと、そういうふうに思っております。

また、反収に応じた奨励金の支給ということで、目標額は反収150キログラムであります。栽培規模5反以上で反収200キログラムを達成した生産者に対して1キロ当たり50円の奨励金を出したいというふうに思っております。

最後であります。地域おこし協力隊による支援ということで、地域おこし協力隊を募集しまして、1年目は栗栽培技術の習得、園地巡回、高齢農家の園地を中心

に管理を行っていただきます。

2年目以降は、高齢農家の園地を中心に防除、剪定も含めた管理作業を行ってまいります。任用期間後は、町内の栗園の継承や農業に関わる定住を目指してまいります。

以上、5点ほど皆さんにお示しをしておりましたが、これをしっかりと実践に結びつけて栗振興につなげたい、そう思っております。

議員各位それぞれの考え方あるいは立ち位置での判断になろうかとは思いますが、私にとりまして非常に重く重要な案件であります。将来を見据えたとき、是々非々での美郷町栗振興に御理解を賜りますようお願いをいたしまして、提案理由といたします。

【議長 那須 富重】

提案理由の説明が終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑を許します。

質疑はありませんか。

【10番 山田 恭一郎】

議長。

【議長 那須 富重】

10番、山田 恭一郎議員。

【10番 山田 恭一郎】

2点ほど、質問を申し上げます。

「栗一本で全面に進めていきたい」という町長の決意ではありますが、前回のときに美郷米特Aについても、同じようにセカンドとして進めていきたいという御発言がございました。

その場合においても、栗と同じように手厚い施策、施設それから例えば、ライスセンター等、いろいろなものが地域のために建っております。集落営農組合等、多々ございます。そのあたりもの特A米を推進するためにも同じように平等に進めていくのかどうか、その点の質問であります。

それからあと1点、栗生産者及び栗工場関係者が視察旅行に行ったと聞いております。その内容が、その件が町行政にも何かそれに関与があったのか、それと、分かればその視察の内容をお示してください。

以上です。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

特A米、食味ランキングにおいて2年連続の特Aを取ったということで、201

9年産、2020年産米が今のところ連続で特A米を受賞しているということで、本当にうれしいかなあと考えております。2021年産米が今、すくすくと育っているところではありますが、3年連続となれば、本当に付加価値が高まってくるということで非常に期待をしているところでもあります。

議員おっしゃいますように、やはり米のほうも、といたしますかうちの元々の1次産業というものを考えたときに、やはりこれの掘り起こしという部分が大切になってまいります。遊休農地等々が空いてきますので、しっかりとした米政策をしていく。やはり今度は一つ一つですがそれに特化していくということで、遊休農地の解消そして米の価格のつり上げ、そうすることによって生活環境の維持ということにつながっていきますので、そういう部分はしっかりとやっていきたいと、そのように思うところでもあります。

視察の件については、ちょっと分かりませんので、担当課長に説明をお願いいたします。

【議長 那須 富重】

暫時休憩といたします。

(休憩：午前 9時43分)

(再開：午前 9時44分)

【議長 那須 富重】

休憩前に引き続き、会議を再開します。

山田議員、ちょっと具体的な何か情報がありましたら、もっとお聞かせ願いたいということですが、どうですか。

【10番 山田 恭一郎】

議長。

【議長 那須 富重】

10番、山田 恭一郎議員。

【10番 山田 恭一郎】

私が知りたいのは、この栗工場建設に対して視察研修があったのかどうなのか。北海道辺りに研修に行かれたというふうに聞いたんですが、それが町の行政の指導の下で行かれたのか、自主研修だったのか、どういうメンバーが行かれたのか、そういうことでもあります。

以上です。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 那須 富重】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

国の1,000万円の交付金事業を使いまして、昨年、ちょっと日付は詳しいことは覚えてないんですけども、栗の生産者と一緒に低樹高密植栽培の研修のほうに行かれております。生産者が多分、二、三名だったと思います。うちの職員が2名とあと普及所も行っておりますので、ちょっと詳しいことはちょっと覚えてませんが、関東方面に行ったことはあります。

以上です。

【議長 那須 富重】

北海道ではないわけですね。

【政策推進室長 沖田 修一】

北海道のほうは、山地型商社の視察研修のほうに私が行っております。
以上です。

【議長 那須 富重】

その内容的なことは。山地型商社の件でということは、栗の件でじゃなくて。

【政策推進室長 沖田 修一】

違います。

【議長 那須 富重】

山田議員、いいですか。

【10番 山田 恭一郎】

はい、いいです。

【議長 那須 富重】

ほかに質疑はありませんか。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番 園田 義彦議員。

【9番 園田 義彦】

町長は、「この栗加工施設整備で6次産業を進めた後も、ほかの農林産物の6次産業化も模索していく」とのことでありましたが、もし、この議案が否決された場合、あくまでも私の憶測ではありますが、国からも美郷町に対する信頼と期待がちょっと薄くなって、今後、少しなりの影響があるのではないかなあと感じておりますが、そのあたり町長の見解でもあれば、お聞かせを願いたい。

以上です。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おっしゃるとおりゼロではありません。今までいろいろな形でお願してきた経緯がありますので、もし、そういう形になれば、やはり信頼を失うことは間違いないと思います。

今、県の職員そしていろいろな出先の人、農政局、風通しがすごくいいということで、ある程度、県の幹部の方々からもいろいろな形でこういう事業があるんじゃないかという話の中で提案をいただくことが多くなってきております。

ですので、そういうものが少しなくなっていくかなというふうには思うところがあります。

でも、これは議会が、こちらが提案する重き責任もあるんですが、やはりそちらのほうがそれに対して採決をするという二代表制でありますので、致し方がないと。そこ辺は、もしそうになったら、懇切丁寧に県なり国なりに行って、こういうことで申し訳なかったということでおわびはしたいと。

しかし、言うように、この栗振興また米、いろいろな形での産業振興は今まで以上に頑張っていきたいと、そう思うところがあります。

以上です。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番 黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

栗生産振興策、後のほうでおっしゃってた件。「あくまでも案であって、今後、検討していく」ということであつたんですが、1つだけ注文があるのは、議員との協議ではなく生産者自体と、たくさんの生産者自体とお話をしただきたいというのがまず1つお願いです。

もう一つ、地域おこし協力隊の話があつたんですけれども、例えば、今、本町には林業大学校生が来てます。林業大学校の学生はまず最初に、下刈りチェーンソーの免許を取ります。彼らにそういう除草作業、そういったことを協力してもらおうということはいかがでしょうかという点です。

彼らも金曜日までの授業で土日はアルバイトを探している子たちもいるというふうに話を聞いています。そういった子たちに協力してもらおうと。こちらも本当、一番切ってほしい時期なので、非常に良いんじゃないかというふうに思うんですが、そのあたりいかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

ありがとうございます。生産者とはもちろんしっかりと話して、今後どうするかと。簡単なアンケート等々は採っておりますけれども、結局、園地マップを作っていくときには、詳細にその園地がどこにあって、面積がどのくらいあって、そしてどのくらいの収量だという部分を作っていきたいと。

やはりそこそこの園地を見ながら目標値をつくっていただくということで、今後、振興していきたいと。そして、言うようにほかの作物、その方が作ってる。それとリンクさせていきたいというふうに思うところです。ですので、それは第一義的に考えていきたいと思っております。

2番目の林業大学校生ですけど、今、20人来ていただいておりますが、良い提案ですので、また所長等々と説明にうかがって、そのようなことができるか否かという部分で、多分、できるだろうと思っておりますので、そのようにやはり人手不足といいますか労働力の確保という点からすれば非常に大きな戦力になりますので、そういう方向性は模索していきたいとそう思っておるところであります。ありがとうございます。

【5番 黒田 仁志】

議長。

【議長 那須 富重】

5番 黒田 仁志議員。

【5番 黒田 仁志】

ぜひ、協議をお願いします。

それから、先ほどからあった園地マップの作成ですね。やはりこういう調査というのは本当に大変なんでしょうけれども、もうぜひこれはスピード感を持って取り組んでいただきたい。もう年度内には予算に間に合うようにしっかりと調査を終わるように頑張ってお努力していただきたいと思っております。

林業大学校のほう、私たちも口添えしていきたいと思っておりますので、ぜひそういったことになると非常に良いかと思っておりますので。

もちろん栗だけに限らず、ほかの作物でもいいと思っております。やはり全ての作物で今の時期は除草作業が必要だというのがほとんどなので、非常に大きな戦力になるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【議長 那須 富重】

ほかに質疑はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 那須 富重】

質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

【10番 山田 恭一郎】

議長。

【議長 那須 富重】

10番、山田 恭一郎議員。

【10番 山田 恭一郎】

反対の立場から意見を申し上げます。

4月に町民税、固定資産税の納付書が送られてきました。ふうっとため息が出ました。今月初めに介護保険料の決定通知書が送られてきました。愚痴が出ました。先週、国民健康保険税の納付書が送られてきました。ちゃんと払えるか冷や汗が出ました。

個人事業の我々にとって、産物や商品を販売して現金に換えて仕入れや経費を払ってしまうと残るものはごく僅かです。それから、税金や保険税を納めたら、幾ばくも残っていないのが現実です。涙が出ます。働けど働けど我が暮らし楽にならざり。じっと手を見る。こんな言葉が頭をよぎります。

我々住民が収めた税金や保険税と国民全てはどこに住んでも平等に行政サービスが行き届くための地方交付税等で、美郷町民に必要な予算が決められます。その大切な税金や保険税の運用の責任全てを町長と我々議員全員に任されています。

町民の皆さんが納めていただいたお金の大切さとそのお金の活用責任の重大性を我々は常に認識しながら、この場、この議場にいなければならないと思っております。

町長は、今回の栗工場建設の説明でよく、諸葛孔明の格言を引用されました。「座して待つより出でて活路を見出さん」本来は、「座して死を待つより出でて活路を見出さん」という兵法の格言だと思います。

要するに、「このままでは駄目だ。どんげかせにゃいかん。美郷町は行き詰まる」と言われているように思われますが、私は、議会に対して議論と結論の性急さを求めているようで慎重さに欠ける発言だと思っております。

税金や保険税は町民一人一人がやっとの思いで納めたお金です。税金は美郷町民のために大切に大切に使っていかなければなりません。少なくとも税金をリスクのある事柄に使うときには、慎重にも慎重を重ね、石橋をたたいて壊すくらいたくさん意見を聞いて執行していかなければなりません。人は前向きの御意見には耳に優しいものです。後ろ向きの慎重な意見にも耳を傾けていただきたいと思っております。山登りに例えると、登頂で問題が発生したときに、頂上に向かって無理して登るのか、再チャレンジを決めて安全第一で引き返すのか、リーダーの決断が求められます。

「6次産業化とは、1次産業としての農林業、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業との一体的な推進を図り、農山村の地域資源を活用して付加価値を生み出す取組だ」と農林水産省のホームページに記載があります。

要するに、1次産業の農林業の産物を2次産業が加工して3次産業が販売する一連の業務を地域で行い、収益を上げるのが業務だと解釈をいたします。

本議会の説明において、まだ1次産業すなわち今回の事案では、栗を植えて育てて収穫するまでの基盤がまだまだ未完成であると町長もお認めになりました。そし

て、「栗の木の植林と育成と管理の方法の研究を今から始めたい」と発言されました。

栗の木の植林と育成は、今から予算案をつくり議会が可決して、これからのお話です。美郷町内に栗の原料があつての栗加工場の建設です。栗加工場の建設より、まずその予算を栗の木の育成に充てるべきです。

富士山は誰が見てもきれいな神々しい山です。誰もが憧れる日本一の山です。それはしっかりとした裾野を持つからです。6次産業も1次産業のしっかりとした裾野を構築して初めて成功がなし得るものであります。

ここにいらっしゃる全ての人にお願いをいたします。現状での栗加工場の建設計画では、町民が納得をいたしません。たくさんの反対意見押し返して建設しても町民の協力は得られません。我々は今、何をしなければならないのか、一度、立ち止まって考える必要があります。

今ここで建設を決定して実行すれば、町民は行政を信用しなくなります。議会を信用しなくなります。栗生産業界は地域の協力を失うと思います。「急がば回れ」です。本議案について、政策推進室のみならず農林振興課、企画情報課、財務課、教育委員会、地域内外の産業団体、商工会、農協、地域の有識者など美郷町民総意の裾野の広い議題として再検討していただきますよう提案をいたします。

工場建設には1億8,500万円の国からの補助金が出ます。国の補助金が得られるのだから今がチャンスと捉える意見もございました。

しかし、今まで多額の国の補助金が事業完結の早急さと事業の拡大を求め、大型の施設の建設となりました。今回の栗工場においても、最初の説明が2億円程度、それが最終の提案は4億639万円、それに附属設備は別途加算になり事業の肥大化を招きました。

本来、多額の国の補助金の目当てがついても最初にすべきは経営健全、経営ビジョンの検証であり採算性であります。先週7月15日、この場で江藤 拓元農林水産大臣はお話の中で、「新しいことには採算性が大事だ」と2度も話されました。町内の温泉施設、第三セクターはじめ観光施設、パン工場、ジビエ工場など建設当時を思い起こせば、我々は学ぶことがたくさんあります。抜本的な栗産業の振興は必要です。

しかし、本議案の工場建設は反対をいたします。本議案が可決となれば、美郷町行政と美郷町議会は多くの町民から信頼を失うこととなります。私の議員生命をかけて、この議案に対しては反対をいたします。

以上です。

【議長 那須 富重】

ただいま反対の討論でありました。

賛成の討論がおありの方は。

【3番 川村 義幸】

議長。

【議長 那須 富重】

3番 川村 義幸議員。

【3番 川村 義幸】

私は、賛成の立場で討論させていただきます。

栗餡の工場の整備がなぜ今、必要なのかを皆さん、考えてください。

今、世の中は安心安全をお客様に届けなくてはならない時代です。ですが、現在、使用されています工場は20年前の古い設備で安心を届けられる工場にはそぐわない部分がかなりあります。今年から、安心安全を届けられるように食品衛生法でHACCP（ハサップ）が言われております。現在の工場でハサップ認証は難しいと思われまます。これから栗餡を売り込んでいくには一番大事なことだと考えられます。

また、この事業を進めることによって、栗生産農家の方たちの収入も増え、また、町にとっても税収も見込まれます。6次産業の一番大事な生栗の生産は確かに心配です。しかし、この部分は栗の品種改良や剪定、肥培管理をしっかりと指導体制をとり取り組んでいくことにより解消できることと考えられます。

何かをやるうとするは賛否両論あることは何でも同じです。しかし、何も無いゼロからの出発より、今あるものに手を加えていくことのほうが事業としてはやりやすいことだと思われまます。

これから栗餡を売り込んでいくのに一番大事なことを考えまます。せつかくある資源です。ここで見捨てることは、町にとっても損失の大きいことで、せつかくのチャンスです。国からの補助事業です。国庫補助の1億8,000万円をここで棒に振ったら、今後、必要なときに「美郷町はあのとき、キャンセルしたですよ」と、今回、キャンセルしたことによって、次回の依頼を聞いてもらえない可能性はないかと、これも心配です。

こういった今後のことも踏まえ、ぜひ成功させて、美郷町の6次産業を前向きに進めていくことが今、大事なことだと考え、私は賛成とさせていただきます。

【議長 那須 富重】

賛成の討論でした。

ほかに。できましたら、反対の討論の方がありましたら。

【8番 森田 久寛】

議長。

【議長 那須 富重】

8番 森田 久寛議員。

【8番 森田 久寛】

今回の提出議案につきまして共通する点、それはやはり議員全員が6次産業化の栗加工場建設については大賛成だろうというふうに私自身、議員全体が考えていると思います。

ただ、その中での問題点を挙げるなら、やはりまず予算だろうと思うんですね。最初、当初予算を説明したときに2億円、その後、国の予算がついてくるのでというので4億円、その後また、説明の中で、本来ならば6億円かかるかもしれませんが4億円の前の線で進めたいと思うと。それくらいものすごい膨大な金がかかるわけですね。もしかすると、4億円で、これを議会が採決をして賛成多数で決めたなら、恐らく途中で中身のプラス何千万円という追加予算をつけてくるんじゃないかというそういう心配もしなければなりません。

それと、この計画性に問題があると思うんです。

加工場自体はいいんですが、全体の栗栽培について、10年後、アンケート調査

でも「約6割近くの栗園が廃園になる可能性がある」というアンケート結果が出たというふうに行政のほうから説明があったわけでございます。

しかし、今、栗加工場が取り扱う量が約60トンくらい。それが10年後も90トンを取り扱う栽培面積を育ててやろうとする計画性を上げたということ。恐らく50トンも集まればいいじゃないかというところに90トンもの栗を集荷する必要がどこに、計画が出てくるのかと非常に心配をするわけですよ。

だからそういう心配、それともう一つは、計画書の中に栗処さいごうさんが推薦する品種でないと、補助事業対策には該当しませんという中身があったわけですよ。最後には、恐らくその栗処さいごうさんの名前も消えたからよかったですよ、その中で、私は聞きもしないのに、この前も言ったんですが、栗処さいごうさんに言わせると、「ぼろたんという品種は加工には向かないので。それと苗木が高額なので加工には向きません」とはっきり言ったわけですよ、みんなの前で。

私自身、私も含めてほかの人も何人かいると思うんですが、もう7割以上のぼろたん品種に変えた者にとっては、加工に向かないということであれば、もう私も小さな株主の一人ですが、この栗処さいごうさんのほうからも撤退しないと仕方がないような説明で、後で私は、必ず職員からこういうようなみんなの場でその説明があるんだというふうに期待をしてたんですが、ないということは、やはりぼろたんという品種は加工には向かないんだろうなというふうに、残念ながら判断をしたわけでございます。

だからもう少し、今、加工場を建設しなければ、もう今年から加工ができないんですよというのではなく、もう少し半年なりその中身を精査して、計画を練り直して、来年度予算にでもこの栗加工場建設の件について、はっきりと打ち出すことによって、国からの予算が今、削られるという心配をしますが、そのために私たちは国会議員の先生方を国会に送り出すわけですよ。江藤 拓さんなんかは元農林水産大臣です。そういう方々を立派に使っていけば、やはり美郷町のそれだけ一生懸命にこういう6次産業に取り組む姿というのは、必ず認めてくれるというふうに考えて、反対討論とさせていただきます。

【議長 那須 富重】

ほかに討論はございませんか。

【7番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

7番 甲斐 秀徳議員。

【7番 甲斐 秀徳】

それでは、議案第63号に対する賛成討論を行います。

前回、栗部会委員より嘆願書を議会議員全員にいただいたことに対し、議員各位はどのように受け取ったのかなあというふうに感じております。

西郷村時代より受け継がれた栗生産、私も職員と一緒に日之影町の平底に視察研修に行ったことが思い出されました。また、岐阜の栗サミットにも参加させていただいた経験がございます。

1997年の西郷村域要覧によりますと、「農業部門では栗は加工用として評価が

高く、品質は向上している」と記してあります。また、フルーツ加工施設としての果菓子屋の存在もあり、特に農産物に全力を注いでいたことが分かります。それが25年以上も続き、現在に至っているわけであります。

嘆願書にもあるように、部会は少しでも多くの栗生産ができるよう日々活動している。特に、栗加工工場が創業を始めてからは安定した栗価格の維持ができていたので安心して生産に励むことができます。

部会にとっては、これからの栗生産活動が安心安定した体制が整うことは心強い限りです。現在の栗加工工場が老朽化や衛生面での不備のため、今後の加工販売に支障を来すことに対し、栗生産者にとっては欠かせない新しい施設であり、美郷町の産業が発展することを願いますと嘆願しております。

この中山間地において、毎年、現金収入ができるのも栗が良い例ではないでしょうか。栗生産振興に関する取組スケジュールもでき、新しい栗の栽培、仕立て方法も書いてあります。放置農園も、やり方次第では解決されると確信しております。

一方、学校跡地使用の問題ではありますが、ほとんどの方はそのまま放置しても管理費などが発生し、町の負担になるのではないかという懸念もあります。「利用してもらいたい」との声でした。町内に校舎の未使用はたくさんあります。その声を聞いてみてください。例えば、反対、そのままならオーケー、あまりにも矛盾です。人の集まる場所にはおのずと人が集うものです。

次に、資金面です。

もし、これが否決ならば、今後、国からの支援もなくなり事業を行うに当たっては町単独事業になり、そのために資金も圧迫されると思います。基金を取り崩し自己資金で行うために事業自体の圧縮をしていかなければならなくなり、町の将来も不安であります。

6次産業を行うことにより幾らかの資金は必要になります。しかし、やり方によってはその分の投資分の回収は可能だと考えます。そのためには、人材であり人との面識、関わりが大事になってきます。役所だからできること、企業だからできることを前提に、人材を確保してほしいと考えます。

何もしないでこのまま進展のない町、移住者、若者の定住を求めるならば、今、何かを起こさなくてはなりません。昔のままの三村合併のままで終わると思います。攻めの農業、美郷町農業振興のために、全員でここで一点突破をしようではありませんか。

以上で、私の賛成討論を終わります。

【議長 那須 富重】

ほかに討論はございませんか。

【9番 園田 義彦】

議長。

【議長 那須 富重】

9番 園田 義彦議員。

【9番 園田 義彦】

先般の議会でも、美郷町での6次産業化は必要であり、ややもすると栗加工施設自体がなくなるのではないかということ。

また、財源につきましても、1億8,500万円。

【議長 那須 富重】

園田議員、賛成の立場ですか、反対の立場ですか。

【9番 園田 義彦】

最後じゃいかんとですか。

【議長 那須 富重】

できれば、前もって言っていただけると。

【9番 園田 義彦】

分かりました。賛成の立場で討論させていただきます。

加工施設自体がなくなるのではないかということ、また、財源につきましても1億8,500万円は国からの交付金。あとの2億2,100万円は産業等振興基金など、また、ふるさと応援基金を活用すること。

次に、この事業の後には、ほかの農産物に対する6次産業化も進めていく必要があります。この議案が否決となった場合、今後、美郷町に影響があるのではないかと思われること、併せて、部会委員がこれからも頑張っていこうする思いなど総合的に判断をいたしまして、前回、討論を行ったところであります。

あと1点、やはり今後も財政的に厳しいことが予想されますので、基金等の積み増しで財政を維持していくことも大変、重要であります。私たちの時代から次の世代に頑張っていけるような農林産業6次産業化の町、そして、活性化のある町を目指して整備していくことも大変、重要であると思っております。

そういうことで、賛成討論といたします。

以上です。

【議長 那須 富重】

ほかに討論はございませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 那須 富重】

それでは、討論なしと認め、これで討論を終わります。

【議長 那須 富重】

これから、議案第63号 令和3年度美郷町一般会計補正予算(第3号)の採決を行います。

この採決は、起立によって行います。

なお、着席の方は反対の否とみなします。お間違いのないようにお願いします。

【議長 那須 富重】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立少数)

【議長 那須 富重】

起立少数であります。

したがいまして、議案第63号 令和3年度美郷町一般会計補正予算（第3号）は、否決されました。

【議長 那須 富重】

これで、本日の日程は全部、終了しました。

会議を閉じます。

以上をもちまして、令和3年第4回美郷町議会臨時会を閉会いたします。

【事務局長 小田 広美】

「一同起立・礼」・・・お疲れさまでした・・・。

（閉会：午前10時16分）